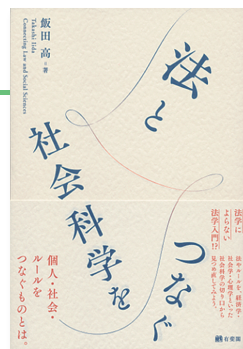


法と社会科学をつなぐ

飯田 高

2016年2月発売／316頁／本体2100円＋税
四六判／並製



編集
担当者
から

みなさんは、他学部所属（出身）の人と話をしたときに、物の考え方や表現の仕方が違うことに戸惑った経験はありませんか？

法学もその他社会科学も“より良い社会を創って人々の幸福を増進する”という大きな共通の目的を目指しています。向かう目的地が同じならば、いろいろなルート（物の見方や考え方）を知っておくことに損はありません。本書は、社会科学（経済学、社会学、心理学など）における概念を題材に、社会科学と法の世界との接点を探っていくことで、みなさんに法学・法解釈学とは違ったルートを紹介します。

本書は、本誌391号～414号に連載された「法の世界へのバイパスルート——社会科学からみる法制度」をまとめた書籍です。単行本化にあたって、3節分（⑩・⑳・㉓）を追加し、全6章構成としました。各章にイントロダクションや結語を付けることで書籍としての流れも意識しました。

経済学や社会学などの知識がなくても、丁寧な解説と具体例でどんどん読み進めることができます。通学・通勤中のお供に是非。（鈴木）

Point!

P

具体例がふんだんに。難しい数式は出てきませんのでご安心下さい。

友人			
	そば	寿司	
あなた	そば	400, 400	-200, 400
	寿司	600, -200	0, 0

※各七の左側の数字はあなたの利益、右側の数字は友人の利益

⑩ 囚人のジレンマの構造

にもかわらずそれが実現しないかもしれない——という状況に陥る。囚人のジレンマ (prisoner's dilemma) である。

似たような問題が生じるというは昔からよく気づかれていたが、明確にゲームの形で問題状況が示されたのは第二次戦後のことだ。アメリカ・マサチューセッツ工科大学 (MIT) のケネス・J・アール (Kenneth J. Arrow) とロバート・J・アクセルソン (Robert J. Axelsson) という二人の経済学者がその生みの親。そして同僚でMITの教授だったジョン・F・ナッシュ (John F. Nash) が名付けた。そして「囚人のジレンマ」の名称は、タッカーがこのゲームを説明するために用いた逸話にちなんでいる。逸話の細部は時代がすぎたが、よく知られるのは次のバージョンであろう (Luce and Raiffa, 1967)。

「二人の被疑者（囚人ではない）PとQが別々の取調室に入れられている。検察官は二人が重罪を犯したのだと思う。だが、裁判にかけて重罪を罪にできるのは十分な証拠はない。そこで、この検察官は各被疑者に「黙秘」「自白」の二つの選択肢を示す。双方とも黙秘すれば軽い罪で起訴するしかない。一方、一方が黙秘して一方が自白すれば、黙秘した被疑者は無罪を主張してくれという理由で三ヶ月の懲役を減刑され、反対に、黙秘した被疑者は懲役〇年の判決を受けることになる。そして両方とも自白した場合は八年ずつの

ずつとなる。

まず、友人がそばを選ぶと仮定しよう。すると、あなたがそばを選ぶと場合、前述のとおりあなたは「100円」・「80円」・「40円」・「0円」の得をする。寿司を選ぶ場合は「0円」・「140円」・「100円」・「40円」の得になる。よって、寿司を選ぶほうが満足度は大きい。次に、友人が寿司を選ぶと仮定して、あなたはそばを選ぶと「0円」・「140円」・「100円」・「40円」の得をする。寿司を選ぶと「0円」・「100円」・「40円」・「0円」の得をする。このことから、友人がそばを選ぶと、結局友人がそばを選ぶよりもあなたは寿司を選ぶほうがよいという結論になる。友人も自らの満足度を最大化したいという思いで、おそろしくあなたと同じように考えるだろう。というわけで、あなたも友人も寿司を選ぶことになる。満足度はどちらともゼロとなる。

ところが、仮に両方そばを選ぶのであれば、あなたも友人も「400円」の得をしたことになる。⑤で登場した用語で表現すると、どちらそばを選ぶときにも「パレート改善」し、「効率的」な状態になる。つまり、両方が寿司を選ぶのは非効率的である。

この例では、それぞれの人が自分にとって最良の選択を行うと、全体としては最良でない、非効率的な状態に陥る。お互いに利益になる状態があるの